

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 89 号

2018 (平成30) 年9月15日 (土)

『かけた情は水に流し、受けた恩は石に刻め。』

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

此の度の大地震、皆様のご家庭は如何でしたでしょうか。案じておりました。

先月(8月18日)の「寺子屋・こども論語塾」は「第1回 論語かるた大会」を実施しましたが、大変な盛り上がりで無事終了することが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。初めて行う行事ゆえ不安や戸惑いがあったわけではありませんが、38名の参加者全員が楽しんでる姿に接し安堵した次第です。若干の反省点は今後に活かしていきます。

子供と大人が混じった7名~8名のグループを1回に2グループずつ、計2回行いました。

背後で応援に徹した人、かるたがスムーズに取れるように後で温かく見守ってくれた大人、年齢差を越えて真剣に取り組んでいた取り手の保護者、大きな声でわかりやすく読んでくれた読み手の街道姉妹などの姿には心打たれました。(かるたは全部で46枚です。)

以下に「論語かるた大会」の成績優秀者を報告します。(敬称略)

A班 1等賞 市澤一輝 次点 深見理良 B班 1等賞 永井みずず 次点 光田虎ノ介

C班 1等賞 光田雪花 次点 堀田美智子 D班 1等賞 永井 母 次点 矢幅友輝

なお、1等賞受賞者に賞品を、次点及び参加者全員にはそれぞれ参加賞を渡しました。

さて、冒頭の言葉は山口県で行方不明になった2歳の男児・藤本理稀ちゃんを救出した大分県出身でボランティアの尾島春夫さんが座右の銘にしている「仏教経典(釈迦の教えを記録した書物)の文章です。

たまたま論語塾当日(8月18日)、北海道新聞の「卓上四季」にこの出来事が取り上げられていたので、かるた大会の前に話しをさせていただきました。

「かけた情」とは、他人には優しく接して、助けてあげることです。「水に流し」とは、してあげたことの見返りを求めないことです。「受けた恩は石に刻め」とは、自分が助けてもらったことや支えてもらったことは、生涯決して忘れないで生きていくことです。何と素晴らしい教えではないでしょうか。

それにしても全国の被災地支援や行方不明者の捜索に自己負担で参加している78歳の尾島氏に心から敬意を表したいと思います。また、冷静に行動した結果、奇跡的に助けられた幼児が、先月元気に退院したニュースを耳にして胸をなでおろしました。

【ちょっといい話 コーナー】

4歳の幼少時より論語塾に参加している塾生の深見理良さん(道教育大付属札幌小5年)は、現在、週6日バレーのレッスンに通い、その後夜遅くに学習塾へ行くそうです。そこでの彼女の素晴らしい実践がその学習塾の生徒便りに掲載されたとのこと。抜粋したものを紹介します。

「いつも終わりに頃に駆け込んでくるAさん(深見理良さんのこと)は、ものすごい集中力でプリントをこなします。Aさんが帰るのは1番最後で・・・帰る前にAさんは、教室全部の机の上を見廻って、残っている消しゴムのカスを掃除してくれます。先生が頼んだわけではないので、『ああ、この子はきちんと育てられているのだな』と感心して見えています。」 何と立派な行動なのでしょう。

まさに「仁の心」を頭で理解し、行動に移し、それをやり続けている理良さんを誇りに思います。